

宮原豊君を偲んで

羽田義久（11組）

入院をしていると聞いてはいましたが、またメールの返事も最近全く無いので気にはしていましたが、あまりに突然の訃報に大変驚き、ショックを受けています。

私は彼とは高校、大学時代とほとんど付き合いはありませんでした。ただ、私の伯父と彼の伯母との縁があり「遠縁」なんだな！と知ってはいました。

それが何と、お互いに大学を卒業して最初に勤めた会社が偶然にも一緒だったのです。都内田無市（現在、西東京市）の製造業「シチズン時計株式会社」の入社式で、久々顔を合わせたときにはお互いビックリし、再会を喜び合いました。彼は新入社員70名程の代表として答辞を読んだ誠に優秀な男でした。私は東京ナンバーワンチームのシチズン時計バレーボール部の一員として引っ張られ入社した男でした。

彼は2年ほどで退社し、日本貿易振興機構「JETRO」に就職をしました。それから海外赴任も多く各地で活躍をしていました。特にインドでの公私にわたる活躍は、彼の人生を貫く大きなモノになったと感じています。またインドの文化・芸術を紹介し、人間関係でも素晴らしい成果を残されました。

私も彼を頼って、10年ほど前に私の現業「株式会社日本ウオルナット」の原料であります「くるみ殻」の新たな供給先としてインド、カシミール地方を紹介してもらい、何度か原料仕入の役割を担ってもらった事を鮮明に思い出しています。今でも大変感謝しております。

とにかく彼はいつでも情熱的に支援をしてくれる男で、才能豊かで、誠に親切で、実に頼もしい友人でした。

また近年では連日の様にインド情報から多方面の事柄や思いをSNSで発信し続けていました。

そんな彼が突然居なくなってしまうなんて、...



一昨年秋に、彼と一緒に青木村の生家のお墓参りをしたことがあります。お墓の草むしりをしたり、水を掛けたりして、二人でお線香を手向けました。

今頃、ご先祖様と語り合っているのかな？と思います。

彼と、もっともっというろんなお話をいっぱいしたかったと、誠に残念でなりません。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

24年9月、宮原君と筆者

(2026年3月3日記)

以上